

[月刊]キリスト教書評誌

一般財団法人キリスト教文書センター

1957年7月17日第三種郵便物認可

2017年8月1日発行（毎月一回発行）第716号

ISSN 0286-7001

本の ひろば

出会い・本・人

加来彰俊先生との出会い 三上 章

本・批評と紹介

川島貞雄 著
聖書における食物規定 佐藤 研

宮田光雄 著
山上の説教から憲法九条へ 朝岡 勝

皆川達夫 著
キリシタン音楽入門 樋口隆一

小島 聡 著
『ヨハネの福音書』と
『夕風の街 桜の国』 川向 肇

ラインホルド・ニーバー 著／高橋義文、柳田洋夫 訳
人間の運命 安酸敏真

丸山久美子 著
北森嘉蔵伝 東方敬信

N.T.ライト 著／山口希生、山口秀生 訳
シンプリー・ジーザス 鎌野直人

エッセイ

『旧約新約 聖書神学事典』を翻訳して
異質なものととの出会いの喜び 山吉智久

宗教改革500年記念講演会によせて
ハンス＝マルティン・バルト教授のこと
荒井 献

本屋さんが選んだお勧めの本
書店案内



8 AUGUST
2017

神＝ゴッドのはじまりを辿る!



「神」の発見

小塩節著
銀文字聖書ものがたり

●四六判・174頁・本体1,500円

スウェーデンの国宝「銀文字聖書」。謎の多い写本を起点に、四世紀に生きたゴット人・ウルフィラの偉業を紹介する。彼は文字を創り、聖書を母語に翻訳した。金銀で刻まれた写本は、1500年の時を超えて現存する!

旧約聖書の積義

本文の読み方から説教まで

D・スチュワート著 山吉智久訳



聖書解釈の手引き

ヘブライ語で旧約聖書を読むためには?
積義の基礎から実践までを段階を踏んで解説。牧師や神学生のみならず聖書を学ぶすべての人にとって不可欠のハンドブック。待望の旧約編!

●A5判270頁・本体3,500円

好評既刊

新約聖書の積義

本文の読み方から説教まで

G・D・フィー著 永田竹司訳 ●A5判256頁・本体3,500円
ギリシア語で新約聖書を読むための、辞典の使い方、解釈、説教作成などステップごとに丁寧に説明。

キリスト者の証言

人の語りと啓示に関する実践基礎神学的考察

原敬子著



●A5判272頁・本体3,800円

教会の誕生から繰り返される行為
証言の中に信仰の本質がどのように具現化するのか。戦後来日した外国人宣教師たちから聴取した証言の再解釈を試みることで、宣教や救いの問題を考究する先進的な研究。

次の読書のために

啓示の意味

●四六判・202頁・本体2,000円

H・R・ニーバー著 佐柳文男訳

信仰論 実践神学再構築試論

F・G・イミンク著 加藤常昭訳 ●A5判480頁・本体5,000円



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL03-3561-5549(出版部)
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e-shop 教文館



出会う・本・人

加来彰俊先生との出会い —— 三上 章

加来彰俊先生は、私にギリシア哲学の初歩を手ほどきしてくださった恩師である。一九六八年、大学一年の春、田中美知太郎著『哲学初歩』をテキストとする、先生の講義「哲学概論」を聴いて感動した私は、おそろおそろ研究室のドアをノックした。「今、波多野精一先生の『宗教哲学』や『宗教哲学序論』を読んでいるところですか」という話をしたところ、「それはめずらしい」と興味を示してくださった。実は、先生は京都大学学生として「学徒出陣」した折、波多野精一の『時と永遠』をふところに出征されたのである。「これから波多野精一全集が出版されるから、君も購読しないか」と誘ってくださった。

ギリシア哲学を専門とする先生の下でプラトンの原典を読みたいという思いから、先生の「ギリシア語文法」の講義を履修した。文法終了後、先輩の学生に加わって、『ソクラテスの弁明』の講読に出席した。一年かけて『弁明』を読み終えたとき、先生は学生には高級すぎるレストランでねぎらってくださいました。しかも、「欲しい本がありますか?」と聞いてくださった。洋書が高価だった時代である。私はバーネットの『パイドン』注解を買っていただいた。

その後、「ギリシア語聖書を自分なりに読んでいます」とお話ししたところ、先生は「よかったら一緒に読みませんか」と勧め

てくださった。日曜の午後、先生の自宅に押しかけ、『ルカ福音書』の講読が始まった。「哲学ははくが先生だけれども、聖書はクリスチャンである君が先生だから、何でも自由に教えてください」といわれた、お世辞ではなかった。「(聖霊)とは難しい概念だね」などと積極的に質問された。先生は風邪の時でも蒲団に入ったまま相手をしてくださいました。この読書会は十年以上続いた。

在学中のある日、先生から呼び出しを受けた。「事務から君が授業料を滞納しているという連絡を受けました。」叱られると思っただころが思いもよらず、先生の口から出た言葉は、「困っているならばくが立て替えてあげようか」であった。京都大学の田中美知太郎先生門下である恩師は、私が東京大学の大学院に入ったときには、心配して同伴してくださいました。妻と一歳半の娘とともにオーストラリア留学に出発するときにも、先生ご夫妻は心づくしの食事とせんべつをもつて歓送してくださいました。九三歳になられた現在も、私のことを気遣ってくださる。先生は、私の学問だけではなく人生の師である。

(みかみ・あきら)元東洋英和女学院大学国際社会学部教授、
聖書・古典講読会主宰

食に関わる論争の秀逸な概観
川島貞雄著

聖書における食物規定 イエスを中心として



聖書における食物規定
イエスを中心として
川島貞雄
岩波書店

佐藤 研

本書は、日本を代表する新約研究者の一人である川島貞雄氏の近著で、「聖書における食物規定の歴史を概観した」書である。しかしこの問題を扱おうと、実は「その範囲は旧新約聖書を超え、初期ユダヤ教、トマス福音書、古代ギリシア・ローマの著述家にも及ぶ」。この膨大なエリアから、「テーマの全体像を粗描し、マルコ福音書七章一五節のイエスの譬えに宿る革新性と独自性を明らかにすること」（以上、「あとがき」三二頁）が試みられる。

やや詳しく見れば、第一章では旧約聖書における「聖」や「汚れ」の観念、そしてそれに基づく食物規定が扱われ、第二章の初期ユダヤ教の叙述へと続いて行く。第三章ではマルコ福音書七章一―三節が積義的に取り上げられ、その後第四章において初めて、マルコ七章一五節（人の外から人の中に入ってきて人を汚すことができるものは何もなく、人の中から出て来るものが人を汚すものである）を中核とした「イエスの振舞い」が論じられる。第五章においては、いわば時間軸的に「原始キリスト教における食事の諸問題」が論述され、

その後第六章でルカ福音書の食物規定問題が、第七章でマトイ福音書の同問題が扱われる。さらに「補説一」でトマス福音書・語録六と一四が、「補説二」で「ラビ文書における律法、言い伝え、異端論難」が論じられ、短い「あとがき」で終結する。なお本書では、既に「はじめに」において各章の内容的なまとめがなされているので、読者は論旨を予想しつつ本論を追える。

全体として浮かび上がるのは、旧約聖書（特にレビ記や申命記など）において宣言されるユダヤ教の食物規定が、その後のユダヤ教界においていかに見事に貫徹されているかである。それは後のキリスト教のルカやマタイの福音書にも抜き差しならぬ影響を及ぼしている。そうであればあるほど、上記のマルコ七章一五節の破天荒さが浮かび上がる。それ故この言葉は近年、イエスの真正の言葉ではなく、異邦人キリスト教の世界で創作されたものと見なされることが多くなった。著者はそれに対し、イエスの真正な句であることが擁護する。それは「本来、全体として律法学者たちとフアリサイ派の者

たちに対するイエスの『戦いの言葉』であったと見るべきであらう」（二一―八頁）。

総じて問題分野のすべてが見事に概観されており、その均衡の優れた積義的判断は多くの学徒の範となる。文字数に限りがある本欄では、さらに二、三の点を述べるだけに留めたい。まず、著者がマルコ七・一五をイエス真正の句とするのは同意できるが、これを「譬え」であると規定するのは、その意がよく伝わらない。また、これがイエスの真正な発言である場合、なぜそのような発言が、これまでのユダヤ教的コンテキストの中で可能（あるいは必然）となったのか、イエスのいわば人間学的根本への観察が欲しいと思う。単に「戦いの言葉」と規定するだけで、出所の説明は十分であろうか。また、この句の射程とその意義は、ペトロたち直弟子層にどのような変遷を経て伝わったのか、あるいはうまくは伝わらなかったのか。その辺の齟齬に満ちた事情への観察も欲しい。象徴的かも知れないが、本書には総体的な考察ないしは結論

の章がない。文字通り「概観」で終わっており、十分内容的に「イエスを中心」にしていけない感を否めない——秀逸な概観であるだけにそう思う。

一言造本に関して。この書は章（および類似部分）の数が十もあり、詳細な注が各章の終わりにくる。読者はいつも章毎に注の場所を確定し、本文と注とを毎度数多く頁を跨いで往復しつつ読むことになる。願わくは、このような本には「傍注」（より良いのは横組みにして「脚注」）を備えて欲しい。読みやすさを主にした造本を切に願う。

以上、批判めいた言辞も弄したが、この本がこのテーマに関する概説として大変優れていることは改めて繰り返しておく。この方面に興味ある人なら必備の書であることは間違いない。

（さとう・みかく）前立教大教員
（A5判・三三八頁・本体三五〇〇円＋税・教文館）

●生きる意味、空虚感に悩む人々への処方箋

私の生きた証はどこにあるのか

大人のための人生論

H・S・クシュナー

松宮克昌訳

私の人生にはどんな意味があったのか？
生きる意味、空虚感に悩む人々に旧約聖書の言葉などを引用しながら、悩みの解決法を提示。
【岩波現代文庫オジナル版 本体1400円】

なぜ私だけが 苦しむのか

現代の
ヨブ記

H・S・クシュナー／斎藤 武訳

幼い息子の発病と余命の宣告——理不尽と思える不幸をどう生きたのか。ユダヤ教の教師（ラビ）が自らの体験から紡いだ、深い睿智と慰めの書。
【岩波現代文庫 本体1100円】



岩波書店
東京・千代田・一ツ橋
（定価は表示価格＋税）

http://www.iwanami.co.jp/

いまこそ必要なキリスト者の応答を聖書的・社会的に根拠づける

宮田光雄著

山上の説教から憲法九条へ

平和構築のキリスト教倫理



朝岡 勝

本書のタイトルにまず、心惹かれます。「山上の説教から憲法九条へ」。この五月、現行憲法七〇周年に際し、行政府の長であり、憲法擁護義務（憲法第九十九条）を負っている首相自らが、二〇二〇年という年限を切って憲法改正を公言しました。昨年の憲法九条解釈改憲に続いて、今度は憲法九条に第三項を加えるという明文改憲が主張されたのです。この数年來、環境権を明記するため、改憲手続きを改訂するため、最近では教育無償化のためと、あの手この手で改憲ムードの醸成に躍起ですが、一番のねらいが憲法九条にあることが明確になった出来事でした。

このような時期に、まことに折に合った出版が実現したことを感謝します。政治思想史学者、キリスト教思想家、すぐれた聖書講解者、そして何よりも聖書が語る平和の使信を、現実的で具体的な「新しい政策選択」(五一頁)として提示する著者の、これまでの営みの結晶のような言葉に触れることで、私たち読者は、明瞭な示唆と、確かな視座を得ることができるでしょう。本書は全体で四つの論考から構成されています。最初の「右

の頬を打たれたら左の頬も向けよ——《山上の説教》と平和構築の倫理」では、主イエスが山上の説教で語られた「愛敵の教え」を中心に、それを単なる理想主義、現実的な責任を回避した「心情倫理」に過ぎないとするマックス・ウェーバー「職業としての政治」と批判的に対話しつつ、今日においても有効な「別の政策選択」(四四頁)であることを提示します。次の「兵役拒否のキリスト教精神史」では、著者の学問的な方法論である「精神史」研究の手法を用いて、主イエスの時代から、アンブロシウス、アウグスティヌスら古代教父たちの時代、正戦論が確立していく中世、ルターやカルヴァンたちの宗教改革の時代、そして現代に至るまでの非戦と兵役拒否の歴史が、実に見事な手際でまとめあげられます。評者にとっては、再洗礼派を祖とする「平和主義セクト」、メノナイト派、クエーカー派、ブレズレン派の系譜が良心的平和主義として正当に位置づけられること、現代の兵役拒否が、「拒否」や「抵抗」というネガティブな態度を越えて、今日では「平和奉仕」としての積極的な意味を持つという指摘に大いに教えられました。

続く「近代日本のキリスト教非戦論——内村鑑三の思想と系譜」では、内村の日清戦争時の義戦論から、戦後の「勝利の現実」(一六七頁)を契機とした非戦論への転向、やがて再臨信仰と終末論の関係でそれが深められていった次第が記されます。「世に迷想多しといえども、軍備は平和の保障である」というがごとき大なる迷想はない。軍備は平和を保障しない。戦争を保障する(一七八頁)とは、預言者的な言葉です。著者は内村の非戦の理念を「単に聖書から演繹された要請であるというだけに尽きなかった」とし、「彼の歴史認識に媒介された——現代風と言えば社会科学の認識に基礎づけられた——戦争の批判であった」(一七八頁)と指摘します。そしてその関連でボン・ヘッファーと矢内原忠雄が紹介されます。

最後の「非武装市民的抵抗の構想——日本国憲法九条の防衛戦略」は、岩波新書の名著『非武装国民抵抗の思想』(岩波書店、一九七一年)に基づき、その後の世界情勢の変化を踏まえ

て、市民的連帯による、徹底した非暴力抵抗の可能性を具体的に提示します。その際「《市民的防衛》を成り立たせる根本的な前提条件は、日頃から《社会的デモクラシー》の体制をつくっておくことだと断言してもよいだろう」(二四一頁)とも言われます。為政者たちが民主主義に挑戦し、まさにこの国の戦後民主主義、立憲主義、平和主義が危機にさらされている今こそ、私たちがキリスト者として、ひとりの市民として、幅広く連帯しつつ、「平和をつくるもの」として着実に生きることが求められているでしょう。コンパクトながら内容の濃いこの本を、多くの方が手にしてくださいるように願います。宮田光雄先生のご健康が支えられま

すようにと祈りつつ。(あさおか・まさる // 日本同盟基督教団徳丸町キリスト教会牧師)

(B6変型・二五九頁・本体一八〇〇円+税・新教出版社)

自伝的伝道論

加藤常昭◎著
最新刊



この時代に改めて伝道の大切さを問う。

前作『自伝的説教論』で半生を語った著者が、信徒として、牧師として、その経験と素材から…それを伝道論として、丁寧に伝道論を説く。

- 第一章 信徒としての伝道体験
- 第二章 スケッチ 伝道の歩み
- 第三章 伝道者の学問
- 第四章 伝道論要諦
- 第五章 伝道論あれこれ

四六判・並製・170頁・本体1,600円+税

前作『自伝的説教論』好評発売中

2,400円+税

キリスト新聞社 since 1946
〒162-0814 東京都新宿区新小川町 9-1
TEL. 03-5579-2432
E-Mail. support@kirishin.com

西欧中心主義を脱した視点からの洋楽伝来史研究
皆川達夫著

キリシタン音楽入門 洋楽渡来考への手引き



樋口隆一

あれは五年前、二〇一二年の夏のことだった。ローマで開催された第十九回国際音楽学会の総会において、皆川達夫先生のキリシタン音楽研究について世界の音楽学者に紹介する機会があった。先生をアジア初の「名誉会員」に推挙するラウダツイオ（称賛演説）を読ませていただいたのである。

戦後間もない一九五五年にフルブライト留学生として米国留学された先生は、比較音楽学の創始者のひとりであるクルト・ザックスに「日本は将来、世界の音楽を研究するための理想的な国になる」と予言されたという。先生のキリシタン音楽研究こそは、まさにザックスの予言を具体化された偉業のひとつにほかなるまい。

先生のキリシタン音楽研究は、一九七五年に長崎県生月島での隠れキリシタンによるオラシヨとの出会いによって始まった。それは歌オラシヨの原曲の同定を求めての世界を股にかけての調査旅行、『サカラメント提要』や東京国立博物館蔵『キリシタン・マリア典礼書写本』の詳細な研究、さらには筆曲《六段》とグレゴリオ聖歌《クレド》との比較研究へと発展し、その成

果は『洋楽渡来考——キリシタン音楽の栄光と挫折』（二〇〇四年）、『洋楽渡来考 再論——箏とキリシタンとの出会い』（二〇一四年）に結実した。

このたび刊行された『キリシタン音楽入門』は、両書のエッセンスを一般読者にもわかりやすく解説するいわばダイジェスト版として企画されたものだが、読んでみるとこれはそれ以上のものがある。『再論』以来三年間に育まれた思考の成熟が、歴史の中にそれぞれ孤島のように姿を残す一見独立した事象を、大きな関連の中でとらえようとする努力が顕著となっており、それが本書をより説得力のあるものとしているからである。帰国した天正少年使節が、秀吉との謁見前夜、ヴァリニャーノ神父と交わしたかもしれない会話を想像力豊かに再現してみせるなど、皆川節も絶好調。本書が先生の卒寿の日に出版されたことを考えると、さらに感慨深いものがある。

大航海時代以来、ラテンアメリカ、そして東アジアに向けて繰り返されたローマ・カトリック教会の世界宣教の実態を探る研究は、それがスペインやポルトガルの植民地主義や奴隷貿易音楽合唱団」による、筆曲《六段》とグレゴリオ聖歌《クレド》の比較演奏に衝撃を受け、東京大会でのこのセッションを企画したという。西欧中心主義からの脱却こそは、いま世界のトレンドとなりつつある。

昨年の三月、愛知県立芸術大学において、深堀彩香さんという若い研究者が「音楽面からみるイエズス会の東洋宣教——16世紀半ばから17世紀初期におけるゴア、日本、マカオを対象として」と題する博士論文によって学位を得ている。皆川先生が先覚者として蒔かれた種は、世界の音楽研究に影響を与えると同時に、日本においてもこうして次世代へと引き継がれている。喜ばしいかぎりではないか。

（ひぐち・りゅういち＝音楽学者・指揮者、明治学院大学名誉教授、元国際音楽学会副会長）

（四六判・一八四頁・本体一六〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

易とも不可分であるがゆえに、西欧中心主義から脱したよりグローバルな視点が求められている。極東の島国であったこともあってかろうじて植民地化を逃れ得た日本という特殊な地域から発した皆川先生のキリシタン音楽研究が、むしろ欧米の研究者たちに評価されるゆえんがここにある。

ことし三月に東京藝術大学で開催された第二十回国際音楽学会東京大会では、イタリア人のデインコ・ファブリス会長の提案で「宣教としての音楽」と題するラウンドテーブルが催され、ラテンアメリカのみならず、インドのゴア、中国のマカオ、そして最後に日本の事情についても議論が及んだが、副会長だった筆者には、特にキリシタン音楽のみならず、明治以降のプロテスタントの宣教と現代日本の教育・文化との関係についても言及するように注文があった。ファブリス会長によると、五年

2017年は宗教改革500年
宗教改革の理解を深める
読んでおきたい新刊

シリーズ わたしたちと 宗教改革

第1巻 歴史

わたしたちは今どこに立つのか

藤本 満
ヨーロッパ、イングランド、アメリカ、そして現代日本に至るまで、プロテスタント信仰がたどった遙かな旅路を描く、画期的な宗教改革史。

A5判 並製・256頁・2,592円

第2巻 聖書

神の言葉をどのように聴くのか

大住雄一
改革者たちが言い切った「聖書のみ」というプロテスタント原理が有する豊かな意味を明らかにする。待望のプロテスタント聖書神学入門。

A5判 並製・120頁・1,512円

宗教改革と現代の信仰

倉松 功
ルターの宗教改革の基本から、宗教改革が現代社会に与えた影響を解き明かす。

四六判 並製・112頁・1,620円

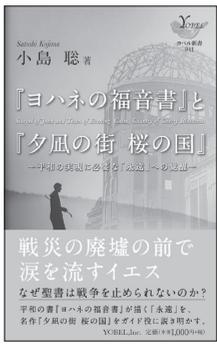
宗教改革500年記念 上記3点も対象！
読者プレゼントキャンペーン
宗教改革を取り上げた書籍・雑誌の応募マーク（点数）に応じて図書カードがもらえるキャンペーンを実施中！詳しくはHPで！

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
http://bp-uccj.jp

現代を生きるすべての人向けの神との関係の世界へのガイドブック

小島 聡著

『ヨハネの福音書』と『夕風の街桜の国』 平和の実現に必要な「永遠」への覚醒



川向 肇

この小さな本は、現代人にとっては、一種前提となつてい
る、過去から未来に向かつて一方的に流れているという時間
理解にある種チャレンジしている本である。その一方向的に
進んでいく時間理解で聖書を読んでもしまうと歪む聖書理解の
問題を、ヨハネの福音書を素材としてとりあげ、聖書が多様
な重層的構造を持っていることを明らかにしようとした本で
ある。

しかし、このようなことを、単にこれまでよくあるタイプ
のキリスト教書のように、理論的、抽象的に示したのでは、
一般読者、あるいは若い一般読者には、このような抽象的な
理解に関する内容は、案外容易に理解できないため、『夕風の
街桜の国』というコミック作品、そして、映画化された作品
を引用しながら、それをメタファーとして、過去と現在が交
差する状況、そして、螺旋的な時間の進み方、歴史的重層性
の中に生まれるものがあるということを、そして、聖書自体
が、ある種時間と空間的制約を超えたものであり、従来の直
線的、線形的な時空間理解とはかなり異なる螺旋的な時間の

中で、重層的な関係性のなかで、読まれ、話され、理解され、
受け取られ、これからも受け取られていくものを示そうとし
た本である。

近代を支配した、直線的な時間の流れが小学校の社会科に
おける教科書の歴史記述や、理科の時間記述から、社会一般
の歴史理解に至るまで時間記述の支配的な概念となり、その
先験的な仮定として強固に支配されたままでは、創世記から
黙示録に至る聖書記述が十分に理解できないのではないかと、
という重要な問題提起をしている。それを抽象的用語で提示
するのではなく、比較的若者にも読みやすい題材であるコミ
ック作品をも絡めながら、聖書を読むときに、現代社会を縛
っている直線的、単層的、単一平面的な時間軸、空間軸で理
解するのではなく、それが現実社会においても十分意味ある
ものであり、特に聖書を読んでいくうえで重要であることを
示そうとしている。

その題材として、福音書の中で最も難解と呼ばれつつも、
しかし、神の愛が最も深く奥行きをもつてあらわされている
街桜の国』のテーマでもある。神のかたちであるべき人間が、
罪の結果、ただでさえ傷ついているのに、それが人間の中に
ある大きな悪（聖書的には、罪）の結果、さらに人間が傷つ
けられる問題についての示唆へとなつがる。一年ほど前、本
書の前段階の原稿についての示唆へとなつがる。一年ほど前、本
書の前段階の原稿について著者の方とじっくり話し合った時
に、問わず語りにお話になられた、ご自身が原子炉材料の研
究者として、なしてきたことに対する反省と告解の告白を示
した本でもあるのではないかと、という印象を評者ももった。

その意味で、この本はある面著者の半生についての反省が
投影された印象深い本であるとともに、小さな本ながら、重
要な示唆を多くのクリスチャンに与える本である。広く読ま
れること、そしてできる限り多くの若者に読まれることを期
待したい。そのためにもできるだけコンパクトで読みやすい
本として出版されたのであるから。

（かわむかい・はじめ）兵庫県立立大学大学院応用情報科学専攻准教授
（新書判・二六八頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）

聖書は何と語っているでしょう

広島女学院院長 学長

湊 晶子 著



「生と死」「死と生」について語り、死の悲しみを克
服するための根源的問題を問う。「永遠の生」とは……

詩編にあった「人間とは何ものなのでしょう。神の被造物です」ということを言葉を変えて言う、自分一人で生きているというのではなく、「神の中に生きている」ことになり、神の被造物としての存在をパウロは「神の中に生き、動き、存在する」という表現を引用して述べています。これこそ聖書の強調点として初めから終わりまで一貫して流れている思想なのです。（本文より）
ヨベル新書042 ●新書判・一九二頁・一、〇〇〇円＋税

『ヨハネの福音書』と『夕風の街桜の国』 平和の実現に必要な「永遠」への覚醒

小島 聡著

なぜ聖書は戦争を止められないのか？



聖書はなぜ平和の役に立っていないのか。「永遠」に目覚めて、聖書の「ヨハネの福音書」の深層部への理解を深めるなら、これらの疑問が解けるであろう。本書は夕風の被爆者とその家族を描いた漫画「夕風の街桜の国」を導き役に読者を「永遠」へと招き、「ヨハネの福音書」の隠された深層部を明らかにしていく。
新書判・一、〇〇〇円＋税

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
お問合せは info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
*自費出版の専門出版社*資料・呈

ニーバーの深遠な神学的歴史解釈の奥義がついには明らかされる
 ラインホルド・ニーバー著
 高橋義文・柳田洋夫訳

人間の運命

キリスト教的歴史解釈



安酸敏眞

ロバート・N・ベラーは前世紀末に、現代のアメリカにはかつてのラインホルド・ニーバーのような、「十分な内的・道徳的権威を備えた指導者がどこにも見当たらない」と嘆いたが、そうした混迷状況はトランプ政権の誕生によって、より深刻度を深めて衆人の認めるところとなった。実際、アメリカ合衆国のみならず、わが国を含む全世界の状況もほぼ同様の危機的様相を呈している。こうした先行き不透明な時代だからこそ、わが国では幻の名著であり続けた本訳書の刊行は、時宜にかなっていると同時にかぎりなく大きな意義を有している。

かつて「現代の預言者」「アメリカ現存の最大の政治哲学者」などと称されたニーバーは、「あたかも外から、つまり永遠ノ相ノ下ニ (sub specie aeternitatis) アメリカを眺めることのできる人間」であって、時々刻々変化する政治的・経済的・社会的現実を、聖書的・キリスト教的見地から鋭い眼識で論評し続けた。他者の追従を許さぬそのような透徹した時事批判が可能だったのは、彼がデトロイトでの牧会を経てニューヨークのユニオン神学大学院において確立した、独自の預言者的・贖罪

論的な歴史神学に深く掉さしていたからである。キリスト教現実主義を代表するニーバーの「応用神学」は、その折々の時事批判の背後に潜む彼の深遠な神学体系を理解せずしては、その真価を把握することができない。

ニーバーの名著と見なされる『人間の本性とその運命』(The Nature and Destiny of Man) は、一九三九年、彼が英国エディンバラ大学で行ったギフォード講義がもとになっており、今回訳出されたのはその第二巻にあたる部分である。第一巻『人間の本性』はその昔、武田清子訳(新教出版社、一九五一年)と野中義夫訳(産学社、一九七三年)として世に送り出されたが、キリスト教歴史観を扱った第二巻『人間の運命』は、待望されながらもこれまで訳出されずに放置されてきた。著作と思想が早く紹介されながらも、わが国でニーバー神学の理解が深まらなかったのは、本書が未翻訳にとどまってきたことと無縁ではない。しかしこのたびニーバー研究の第一人者である高橋義文氏と同僚の柳田洋夫氏のご尽力によって、ニーバーの名著がついにその神秘のベールを脱いで、わが国の読者の前に全貌を現

すに至った。この偉業はいくら高く褒めたたえられてもたたえられすぎはしない。

若い頃、「ラインホルド・ニーバーの歴史理解とその問題性」という表題で修士論文を書いた評者は、『人間の運命とその運命』の原書を手に入れたときのあの感激を、四〇年以上経った今でも忘れない。当時一時的に品切れになっており、仕方なく大学図書館から借りたハードカバーの一卷本を読み始めたが、修士二年の春にペーパーバックの二巻本がようやく入手できた。タイトルページに「1976.3.19 Kyoto Maruzen」との書き込みのある蔵書は、今では背表紙の糊も剥がれてバラバラになっている。鉛筆、ボールペン、マーカーなどによる書き込みが随所に見出されるこの本は、まさに若き日の自分の孤独な神学的格闘の足跡を物語るものである。

あの当時、導き手もなしにニーバーを読むことには大きな困難が伴った。ハーランドやホーフマンなどの研究書を手掛かりに、暗中模索のような読解作業を地道に続けるしかなかった。

幸い、今では高橋義文氏の『ラインホルド・ニーバーの歴史神学』をはじめ、何冊かの優れた研究書が邦語でも参照できる。それに加えて今回のこの翻訳書の刊行である。今やニーバーの神学思想を、とりわけきわめて独創的なその歴史解釈を、日本語で学ぶ環境がようやく整った。これによって若い人たちの間で、ニーバーに対する新たな関心が起こることが期待される。訳者のお二人が払われた労苦にはただただ感謝するしかない。原典に馴れ親しんでいる評者には、英語版の方がやはりストレートに伝わるが、一般読者には本書の刊行はさぞかし待ち遠しかったことであろう。ニーバー研究の第一人者による翻訳書だけあって、翻訳は正確で隅々まで配慮が行き届いている。真の神学的洞察を湛え世界的広がりをもつ本書は、村社会的な安逸をむさぼるクリスチャンには衝撃的ではあろうが、これこそまさに評者一押し絶品である。

(やすかた・としまさ 北海道学園大学学長)
 (A5判・四〇二頁・本体三七〇〇円+税・聖書学院大学出版会)



地の塩となる教会をめざして

袴田康裕*編



「日本のかたち」が変えられていくなかで、イエス・キリストを主と告白するキリスト者と教会は、社会とどう向き合い、どのように関わればよいのか。多面的な視点から、信仰の言葉でこれらを考察する!

好評発売中
 ▶平和をつくる教会をめざして
 ▶世の光となる教会をめざして

四六判・上製

定価【本体 3,200 + 税】円
 ISBN978-4-86325-099-4



株式会社 一麦出版社
 札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
 TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
 携帯 mobile.ichibaku.co.jp

神の痛みの神学から痛み共有の倫理へ

丸山久美子著

北森嘉蔵伝 その生涯と思想



東方敬信

撰理的な出会い

著者の丸山久美子姉は、私にとって青山学院高等部の先輩同窓生にあたられる方であり、青山学院教会で勝部武雄牧師から洗礼を授けられていた。さらに青山学院教会が経堂教会と合併して経堂緑岡教会になった時に、教会生活を色々な地域に求められた方々がおられた時の御一人であった。筆者は、最初の任地が日本基督教団銀座教会であったが、そこから経堂緑岡教会の主任担任教師となった。そのような過去と間接的な触れ合いがあったのは不思議である。その経堂緑岡教会の合併時期の一種の混沌の時に丸山久美子姉は、近くの千歳船橋教会で北森先生と出会われたのである。

しかし、そのような不思議な繋がりでなく、本書の紹介になるが、私にとって東京神学大学の恩師方の御一人である北森嘉蔵教授の本格的な「その生涯と思想」（副題）についての著作が本書である。「北森神学」と言われたり「神の痛みの神学」と言われたりする日本を代表する「世界的神学者」の内実に迫る充実した著作である。

本書の内容は、北森先生の生涯を追跡しながらその神学思想を紹介したもので、内容は

- 第一章 北森神学誕生の軌跡
 - 第二章 日本ルーテル神学専門学校入学
 - 第三章 京都帝国大学時代
 - 第四章 キリスト者平和の会
 - 第五章 千歳船橋教会設立の経緯
 - 第六章 「神の痛みの神学」と仏教哲学
 - 第七章 学園紛争の中に「神の痛み」を見る
 - 第八章 教会合同論と最後の挨拶
- おわりに

新しい神学と教会形成への予感

北森教授の「神の痛みの神学」に到達する契機や過程は極めて丁寧であり興味深い叙述である。その内容の紹介と共に、こ

の神の痛みの神学が福音の論理や内在的三一論だけに終わるのではなく、さらに自然神学の展開とのつながりや、三一の神と世界に係る経絡的三一論への生かし方またトマス・ホッブスのリバイヤン像を克服する十字架の御子のキリスト像による社会的イメージの転換が私たちの社会的証しという課題になるのではないだろうか。その意味では「痛みを共有する倫理」を日本文化にも地球社会にも展開できる可能性があるだろう。そうすれば、モラルの源泉としての「神の痛みの神学」になるであろう。あるいはそこに信仰共同体つまり教会の新しい証しの生まれる可能性があるだろう。その意味で、資本主義社会を突破する新しい社会のイメージを目指せるであろう。それがJ・モルトマンの神学的意図に繋がるのかもしれない。

筆者が東京神学大学に在学中に佐藤敏夫学長とご夫人が発案された神学生たちと教員たちの昼食会を催されていた時、北森先生の隣に座ると、おもむろに先生が「モルトマンから手紙が来たよ」とドイツ語の手紙を懐から出されたことを印象深く思い出す。その意味で、本書が大いに現代の神学的課題に生かされると思う。また新しい教会形成に繋がると予感する。

告白教会へのアプローチ

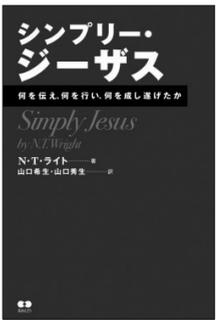
そのような思いを抱いて、後半の「学園紛争」と「教会合同論」また「おわりに」を読むと、晩年の北森牧師の姿勢が描か

れており、一九九七年に「老体にムチ打って沖繩の教会に出かけた」ことも記録されている。具体的には、教団合同問題や聖餐論について誠心誠意を尽くされていた姿が目に見えようである。それには筆者も胸を打たれた。なぜなら、小生も大学聖歌隊が沖繩訪問をしたあと、ある沖繩の教会の百周年記念礼拝に奉仕し、また教団の伝道室の依頼を受けて、沖繩の二つの教会に説教奉仕と講演に出かけたことがあったからである。その旅路を思い起こしながら、北森牧師の尊い奉仕を考えさせられ、現在筆者の出席教会となっている千歳船橋教会の北森牧師退任の時の最後の講演「神の痛みの六十年」において、アブラハムのイサク奉獻を取り上げておられたのも印象的である。「神痛み給う」という言葉と共に伝道と証の使命が紹介されている。また「おわりに」においては、キリストに従い続けた北森牧師の晩年の姿が映し出されドイツ教会闘争のボンヘッファーの働きも描かれていた。私たちもボンヘッファーにおける「神の痛みのアナロジー」と共に「歴史的な痛みを共有する」証の歩みを考えていきたいと思う。

(とうほう・よしのぶ青山学院大学名誉教授
B5判・二二九頁・本体二〇〇円＋税・教友社)

ライトの史的イエス理解
N・T・ライト著
山口希生、山口秀生訳

何を伝え、何を行い、何を成し遂げたか
シンプリー・ジーザス



鎌野直人

新約聖書学者であり、英国国教会のダラム主教も務めたN・T・ライトは、多方面にわたる研究によって学術界をリードしつつも、研究の最先端を平易なことばで、教会に向けて語り続けている。近年、その学術書『新約聖書と神の民』(上巻)と一般読者向けの著書『クリスチャンであるとは』、『使徒パウロは何を語ったのか』が立て続きに邦訳されていることは、歓迎すべきことである。

『シンプリー・ジーザス』には、九十年代末の史的イエスに関する書『イエスと神の勝利』、『イエスの挑戦』(両者共に邦訳未出版)を継承しつつも、ダラム主教時代(二〇〇三年から二〇一〇年)の牧会経験で深められたライトの史的イエス理解(「イエスは変わらないが、私が変わったのだ」とライトは講演の中で述べている)が綴られている(原著は二〇一一年出版)。ライトのもとで博士論文を執筆した山口希生氏と彼の父である山口秀生氏がよくこなれた日本語で訳している。

本書において注目すべきは、世界観が色濃く現れるストーリーやシンボルの役割を重んじた方法論を用いて、史的イエスに

アプローチしている点である(ライトの批判的実在論は『新約聖書と神の民』上巻参照)。さらに、イエスの歴史を、ローマ帝国による支配と、帝国からの解放という新しい出エジプトを求めるユダヤの民族的待望のストーリーと、イスラエルの神のシオンへの帰還という預言者的ヴィジョンという二つの「嵐」のぶつかりという文脈の中で理解しようとしている点、さらに、空間(天と地の出会う場である神殿であるかのようにイエスが振る舞った)、時間(神の時と人の時が一致する安息日が指し示した未来がイエスと共に到来した)、物質(物質世界そのものが、イスラエルの神の臨在と力によって新しく変えられた)という、旧約聖書によって色濃く彩られた一世紀ユダヤ人の世界理解に基づいてイエスの受難と復活を捉え直すようとしている点、特筆に値する。

それでは、現代人にとって見知らぬ世界に住み、見知らぬ神を信じ、支配者であるかのように生きたイエスは何を成し遂げたか、ライトは考えるのか。イエスは神の王国を実現するメシアと、苦難のしもべと、シオンへの神自身の到来の体現という

三つの召命をひとり引き受け、「自らの信従者たちを神殿として建て上げ、また自らで悪の全部の重みを引き受け、その身に宇宙の悲惨のすべてを集中させた」。それは、「悪の力が廃棄され、新しい世界が生み出されるため」(三〇六頁)である。

そして、十字架において世界と人類全体に向けられた告発をすべて自分の身に引き受け、自らのいのちを失うことによって神の創造に敵対する巨大な力に対して勝利を得た。さらに、復活によって新しい創造が誕生し、地においても、天にあるように神の王国が始まったことが確かにされた、とライトは考えている。イエスは、全権を握る者として、天において即位され(昇天)、天地における新しい創造を運営しているのだ。

さらに、世界の王であり、主であるイエスを現代の教会が語るとはどういう意味があるのか。イエスは、人を通して世界を支配するという神の意図の原則を救出し、変容した。そして、その支配が信従者たちを通して地に実現することを願っている。

教会は、イエスの主権とわざを実現しつつける手段としての召命を受けている。このように、ライトの史的イエス理解は教会への挑戦でもある。

本書は、ポストモダン批評を十分に踏まえつつ、第二神殿期ユダヤ教の知識を駆使した、現代の教会の宣教に対する挑戦的なものとなっている。その一方で、本書には、意図的ではあるが、二〇世紀の聖書学では一般的であった、史的イエスと福音書が描く正典的イエスの分離を否定しているかのような取り扱いを数多く見出す。聖書学者、そしてあらゆるキリスト者が、ライトが「シンブルに」描こうとした、複雑な史的イエス像に對して、それぞれの立場からの応答が求められているのではないか。

(かまの・なおと 関西聖書神学校校長
四六判・四一六頁・本体一七五〇円＋税・あめんど)

日本聖書協会
God's Word — Life for the World

聖書を読んだ30人

夏目漱石から山本五十六まで

鈴木範久(著)

近代日本人は聖書のメッセージを
どう受け取ったのか?
日本キリスト教史の泰斗が深い共感をもつて描く!



各方面で活躍した日本人がキリスト信徒であるなしに関わらず、聖書とどう向き合い、生き方になどどのような影響を受けたか。それを日本キリスト教史の第一人者で、内村鑑三研究家としても知られる鈴木範久氏(立教大学名誉教授)が探りました。

●B6判 ●並製 本体1,600円＋税



お問合せ ☎03(3567)1987 頒布部
<http://www.bible.or.jp/>

異質なものとの出会いの喜び 『旧約新約 聖書神学事典』(教文館)を翻訳して

山吉智久



わたしたちは一般に、母国語を用いて多くの物事を理解しています。ごく当たり前のことのようにですが、実はそれによって、既に多くのことが無意識の内に前提とされています。

個人的な思い出になりますが、中学校に上がって英語の授業が始まった当初、大きな衝撃を受けたことを今でも鮮明に覚えています。それまで「卵」と呼んでいたものを、突然に英語では「egg」というと教わったのです。同じ物体を言い表すのに、どうして呼び方が変わってしまうのか。不思議で仕方ありませんでした。しかし立場を逆に見れば、同じ「egg」なのに、ある時は「たまご」、ある時は「らん」と使い分け、同じ「たまご」でも「卵」と「玉子」を使い分けている日本語を不思議に思うことでしょう。

目に見える同時代の具体的な物体を呼び表わすのでさえ、言語が変われば、既にこれほどの相違があります。それが抽象概念であったり、そもそも他の言語には存在しない概念であったりすれば、対象を理解するには、幾重の困難があることは想像に難くありません。

わたしたちは、他言語で記されたものの内容を、翻訳という作業によって知ることができます。しかしそれは、数ある候補の中から一つの言葉を選び取る作業を無数に繰り返した結果です。また、単なる言葉の置き換えでは、元の言語の背後にある文化や思想を十分に捉えることはできません。

聖書は、二千年以上も前の古代西アジア・地中海世界において成立しました。すなわち、二一世紀の日本に住むわたしたちにとっては、時間も場所も遠く隔たった存在です。日本語その他の現代語にそれぞれの背景となる思想や文化があるように、聖書の言語であるヘブライ語やギリシア語の背後にも、それぞれ背後に思想や文化があります。そして思想や文化は、その言語を育んだ時代と地域による刻印を受けています。

このような事情を踏まえて、わたしたちを聖書の思想や文化へと架橋すべく執筆されたのが、『旧約新約 聖書神学事典』です。本事典には、ドイツ語圏を中心とした国際的に著名な研究者たちの手によって、旧約・新約聖書神学の中心的な主題や概念に関して、最新かつ包括的な情報が提供されています。

本事典は、「大項目」と「小項目」の二つの部分からなり、「大項目」には、二二の中心的な神学主題についての導入的な概観が提供されています。これだけで既に、一つの聖書神学の概説書になっています。「小項目」には、「大項目」の主題を掘り下げるのに適した神学的に重要な鍵語について、コンパクトに解説されています。本事典で目指されているのは、神学的基本概念に関して、その発展や背景について文化・精神的な関連を伝えることであり、特に、文学史や時代史、また同時代の周辺世界との接点に重点が置かれています。聖書もまた、周辺文化の影響を受けつつ発展していったのです。

旧約の神は「義」、新約の神は「愛」であり、聖書の特質は「契約」である、しばしば紋切り型のように言われます。その当否以前に、そもそもそれらの概念は、聖書自体にはどのように描かれているでしょうか。本事典を紐解けば、そこにはわたしたちが日本語で一般に理解しているとは違った世界が広がっ

ていることが分かります。聖書における「義」と「愛」は、決して対立概念ではないことに気付かされるでしょう。旧約と新約に分けられた説明によって、それぞれの特質と並んで、両者の関連を意識した全聖書的な理解も促進されます。また本事典は、参照指示によって各項目が相互に有機的に結び付けられており、これらを手がかりとした更なる読書へと誘われます。

わたしたちが聖書の思想や文化を理解しようとする際には、聖書の言語が母国語ではないという大きな隔たりがあります。しかしそれは積極的な意味で理解すれば、あらゆるものに前提を設けず、全てのこと常に注意を怠らない姿勢が、最初から備わっているとも言えます。本事典を通じて、聖書の思想を構成している多くの重要概念の内容を改めて捉え直すきっかけとなり、そこに自分とは異なるものとの出会いが持つ喜びを感じていただきたいと思います。

(やまよし・ともひさ 北星学園大学准教授)



本館の教文

http://shop-kyobunkwan.com/



牧師 神学生 信徒必携の書! A・ベルレング / C・フレールフェル編 山吉智久訳

旧約新約 聖書神学事典

旧新約聖書を貫く基本的な概念を、カトリック、プロテスタント共同で解説。信仰の源泉として聖書を読み解くために不可欠な事典。執筆者全15名、全212項目を収録。 ●A5判・680頁・本体18,000円

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1
TEL 03-3561-5549
呈 図書目録 ●価格は税抜

ハンス＝マルティン・バルト教授のこと

荒井 献

この度、「宗教改革500年記念ウィーク」の最終日（9月18日）に記念講演をされるH.M.バルトに私がはじめて会ったのは、今から約半世紀前、一九六〇年〜六三年に私がドイツ・エルランゲン大学に留学していた時、私が出席していたE・シュタウファー教授のゼミにおいてである。バルトはエルランゲン出身で、郷里の大学神学部に入學し、研究を始めたばかりの頃であった。私は20歳台の後半、彼は10歳台の後半で、彼との出会いはお互いに「青春の一齣」であった。

彼は、私が当時寄宿していた神学生寮「ウェルナー・エラー・ハウス」に度々私を訪ねてきて、ドイツの神学的状況やお互いの研究目的について親しく語り合ったものである。バルトは、すでにその当時からルター神学の「批判的・歴史的」研究を目指していた。私自身も新約聖書の「批判的・歴史的」研究を志向していた。その上、私の卒業（東大教養学部教養学科ドイツ分科）のテーマがルターの『ガラテヤ書注解』であったので、お互いに話がよく合って、談合は夜更けまで続いたことがしばしばあった。

その後バルトは、ハイデルベルク、ローマで学び、ギーゼン大学においてルター研究でDr. phil. (神学博士)の学位を取り、教授資格試験にもパスして、同大学の神学部教授となり、最終

的にはマルブルク大学神学部教授となった。この間彼は、一九七〇〜二〇〇九年、「福音主義同盟(ドイツ・キリスト教団)」議長をも務めている。マルブルクでバルトは、組織神学のほかに宗教哲学も講じており、プロテスタント神学と日本の仏教、とりわけ浄土真宗との比較研究にも専攻分野を広げていた。二〇〇〇年には、マルブルク大学と大谷大学との共催で開かれた「浄土真宗と福音主義神学・第三回国際ロードルフ・オットー・シンポジウム」の報告書を、箕浦恵了ほかとの共編で、法蔵館から公刊しており、二〇一二年には京都大学に客員教授として招聘されている。

この間に彼は、一日休暇をとって夫人と共に上京、当時東京女学院大学の学長をしていた私を訪れた。私は夫妻の願いを容れて東京を案内したが、バルトが最も興味を示したのは、銀座の教文館と上野の日本学士院であった。教文館のキリスト教図書部のような広範な蔵書のある書店はドイツにはない、と驚嘆していたし、日本学士院のような全国組織の学問の殿堂もドイツには存在しない、と羨望の念を吐露していた。

(あらい・ささぐ、東京大学・恵泉女学院大学名誉教授)

宗教改革500年 記念ウィーク

宗教改革が問いかけるもの



教派・教会を超えてキリスト教会に連なる皆様のみならず、関心をお持ちのすべての方々を対象として、各分野の第一人者による多様なプログラムをご用意いたしました。皆さまのご来場をお待ちしています！

2017年9月12日(火)～9月22日(金) ※定員になり次第締め切ります。お早めにお申し込み下さい。

記念展示会
10:30～18:00
(最終日12:30～17:00)
銀座教会
東京福音会センター

2017
9/12(火)
～17(日)
入場無料

「宗教改革が文化に及ぼした影響」

◆レクチャー

- 9月15日(金) 宗教改革時代の美術
佐川 美智子氏 (元町田市立国際版画美術館 副館長)
- 9月16日(土) 宗教改革と音楽
藤原 一弘氏 (青山学院大学、北海道大学非常勤講師)
- 9月17日(日) 聖書の装丁の歴史
中西 保仁氏 (印刷博物館学芸員)

※レクチャー参加の方は、お申込みが必要です。(定員50名)
Eメール: lib@bible.or.jp FAX 03-3562-7227

エキキュメニカル 晩餐会

2017
9/18
(月・敬老の日)

(定員150名)
18:00～20:30
帝国ホテル 光の間2階
会費18,000円 (正餐つき)

講師 江口 再起氏
(ルーテル学院大学教授)



「贈与の神学者ルター」

司会 須貝まい子(女優)

音楽ゲスト MCSメサイアコーラルソサエティ合唱団
指揮者 小田 彰氏 (ライトハウス田園調布チャペル牧師)

記念講演会

14:30～16:30
有楽町朝日ホール
会費1,000円 (定員600名)

2017
9/18
(月・敬老の日)

講師 ハンス＝マルティン・バルト氏
(マルブルク大学名誉教授)



「現代世界における
宗教改革の意義」

司会 廣石 望(立教大学教授)

記念コンサート 「Hope & Love」

2017
9/22
(金)

東京オペラシティ
コンサートホール
18:30 開場 19:00 開演

◆PROGRAMS

J. シベリウス 「フィンランディア」
HANDEL 「メサイア」ハイライト 他
SS席 ¥5,000 S席 ¥4,000 A席 ¥3,000 B席 ¥2,000
指揮: 星野 誠
ソプラノ: キム・スヨン テノール: イ・ヨハン
東京シモンフィルハーモニーオーケストラ
東京シモンコーラス 根津コーラス

(チケットお問合せ)
■チケットぴあ 0570-02-9111 ■東京シモンコーラス事務局 03-3351-6004 ■アークノアコンサート 030-5560-3773

宗教改革500年記念行事のために、
お祈りとご支援をお願いします。

日本聖書協会 (ご連絡は広報担当まで)

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 Eメール: info@bible.or.jp
TEL.03-3567-1988 FAX.03-3567-4436 http://www.bible.or.jp/r500/

記念ウィーク
特設サイト→
チケット申込こちら



本屋さんを選んだ お勧めの本

名古屋聖文舎 伊奈均志

『がん哲学外来で 処方箋を』

樋野興夫著



1,500円+税
日本キリスト教団出版局

「病気とは人生の夜の側面で、迷惑なものであるけれども、市民たる者の義務のひとつである。この世に生まれた者は健康な人々の王国と病める人々の王国と、その両方の住民となる。人は誰しもよい方のパスポートだけを使いたいと願うが、早晩、少なくともある期間は、好ましからざる王国の住民として登録せざるを得なくなるものである。」

『隠喩としての病い』よりS・ソング著

現在、日本人の二人に一人ががんにかかり、三人に一人ががんで亡くなると言われています。近親者あるいは自分自身ががんと告知されない限り、切迫した問題意識が浮かび上がることも稀です。

私の高齢の母が三月に直腸がんとを患い、検査の結果ステージⅢbと進行がんと告知を受け、開腹手術で病巣を切除し、五月から術後の補助化学療法（抗がん剤治療）

を外来通院で日常生活を送りながら受けることになりました。その最中、私自身も身体の変調を憶え、膀胱の内視鏡検査を受けることになりました。大事には至らなかつたのですが、切迫したリアリティが身近なものとして意識されました。がん告知という切迫したリアリティの前に、私たちの「こころの拠り所」は実に心もとない限りです。

「がん哲学外来」とは、病理学者の吉田富三のがん学と内村鑑三、南原繁、新渡戸稲造、矢内原忠雄というキリスト者の思想を合流させた著者の造語「がん哲学」の理念に基づいています。がん患者と医療の間にある「隙間」を埋める役割は、私自身が経験した「こころの拠り所」に合致します。対話による「言葉の処方箋」は、がんと共に生きる希望へと患者と家族を導いてくれるでしょう。また、この書には「がん哲学外来」メディアカルカフェと出会った二十四人の証言も収められています。

患者自らが「言葉の処方箋」により「こころの拠り所」と対峙し、癒されていく過程も記されています。

名古屋聖文舎

〒464-0850 名古屋千種区今池5-28-4
TEL: 052-741-2416
FAX: 052-733-2648
URL: <http://homepages3.nifty.com/seibunsha/>
E-mail: nagoya-seibunsha@nifty.com

新生館 神吉学

『日本基督教団戦争 責任告白から50年』

『時の微』同人会編



1,300円+税
新教出版社

の発表までの様々な出来事が記されており、改めて「戦争責任告白」の意味を考えさせられました。また他教派の戦争責任告白等の資料も掲載されています。

平和について考える時、ぜひ読んでいただきたい一冊です。

新生館

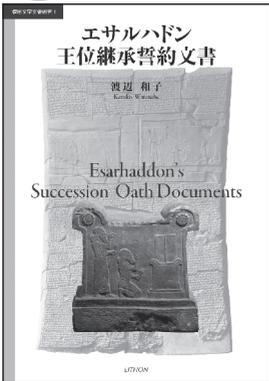
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-1
TEL: 092-712-6123
FAX: 092-781-5484
URL: <http://www.sinseikan.jp/>
E-mail: info@sinseikan.jp

戦後七〇年を過ぎ、戦争を知っている人が少なくなりつつある中、平和とは何かを考える機会に本書が出版されました。

私も日本基督教団の信徒ですので、「日本基督教団戦争責任告白」は知っていますが、それがどの様な経過をたどったものなのかはよく知りませんでした。本書には「告白」



新刊



エサルハドン 王位継承 誓約文書

渡辺和子 著

●A4判上製 本体6,400円+税
前672年にアッシリア王エサルハドンによって大量発行・配布された「エサルハドン王位継承誓約文書」は、粘土板に楔形文字のアッカド語で刻まれている。それは、多様な文化的背景をもつ人々を擁する大帝國となったアッシリアにおいて、最高神アッシュル以下「全世界」の神々の前でアッシリア内外の要人たちに、次の王（皇太子）への忠誠を誓わせた誓約文書であった。本書は、近年トルコで発見された一つの新文書を含むテキストの再編纂、構成と文法の解明、全文の本邦初訳を含む。さらに本文の新しい解釈に基づいて、ユダ王ヨシヤの改革及び「申命記」、そして宗教史に与えた影響の可能性について論じる。

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用		zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター177F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区稲毛2-2-1	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	350-1331	埼玉県狭山市新狭山1-5-1	042-900-2771	042-900-2722		seikoshoten@bible.or.jp	00160-2-18410
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://taisindo-books.jimb.com/	taisindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.biglobe.ne.jp/~yohatara.cbs/index.html	sksch@mva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834	http://web.kyoto-net.or.jp/people/kjordan/	kjordan@mbox.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://osakacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
バイブルハウスびばらすの森	591-8041	堺市北区東雲東町1-1-16	072-257-0909	072-253-6132		sakai-jbs@bible.or.jp	00160-2-18410
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三陽ビル2F	078-331-7569	共用		kobe-kirisyo@mse.biglobe.ne.jp	01150-7-45120
広島聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsujama_1007/mex.htm	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用		kbookcenter@bible.or.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	903-0207	中環区調子字線777 沖縄キリスト教院内	098-943-7221	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は、日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

既刊案内 (2017年4月～5月) (定価はすべて本体価格+税)

編・著・訳者	書名	判型	頁	本体価格	版元	発行日
ドイツ福音主義 教会常議員会 芳賀力 著 義認と自由 —宗教改革500年— 2017		B 6	162	1,400	教文館	4/10
G. プラスガー 矢内義顕 著 カルヴァン神学入門		四六	224	2,400	〃	4/30
皆川達夫 クリシタン音楽入門 —洋楽渡来考への手引き		四六	184	1,600	日本キリスト 教団出版局	4/25
宮田光雄 山上の説教から憲法九条へ —平和構築のキリスト教倫理		B6変	259	1,800	新教出版社	4/25
渡辺和子 エサルハドン王 位継承誓約文書		A 4	312	6,400	リトン	4/27
井上洋治 著 山根道公編・解題 若松英輔解説 井上洋治著作選集8 法然—イエスの面影を しのばせる人、風のな かの想い—キリスト教 文化内開花の試み(抄)		A 5	248	2,500	日本キリスト 教団出版局	5/20
H.W.ホーランドル 著 池永倫明 訳 コンパクト聖書注解 コリント人への 第一の手紙 I		四六	276	3,500	教文館	5/25
エイレナイオス 著 大貫隆 訳 キリスト教教父著作集2—II エイレナイオス2 異端反駁 II		A 5	226	4,000	〃	5/30
金子晴勇 宗教改革者たちの信仰		A 5	286	2,000	〃	5/30
宮平望 神の和の神学へ向けて —三位一体から三 間—和の神論へ		A 5	320	2,400	新教出版社	5/15
栗林輝夫 著 西原廉太、大宮有博編 日本で神学する —栗林輝夫セ レクション1		A 5	350	3,600	〃	5/25
正田倫顕 ゴッホと〈聖なるもの〉		A 5	218+ 口袋38	2,700	〃	5/25
大頭真一 焚き火を囲んで聴く 神の物語・対話編 —大頭真一と焚き 火を囲む仲間たち		四六	368	2,500	ヨベ	5/31

福音と世界

2017年8月号

特集 象徴天皇制・国家・キリスト教

寄稿者 上村静、河西秀哉、中川信明、堀

江有里、島園進、森田晝基

平和教育資料センター開設さる 大嶋果織

好評連載 台湾キリスト教史(高井・ラウ由紀)、

現代神学の冒険(芦名定道)、詩篇(月本昭男)、

第一テモテ書(辻学)、レヴィナスの時間論(内

田樹)、アメリカの神学と教会のいま(吉松純、

聖書とわたし(柳美里) ほか

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyō-pb.com

編集室から

虐待や搾取、カルトや右派政治団体など、昨今国内で「宗教」が巷間の耳目を集めるのはネガティブな文脈上が多い。しかし市井での宗教に対するマイナスイメージを、同じ「宗教者」という意識で慨嘆するキリスト教徒は少数ではないだろうか。

日本人が無宗教と答えたがるのは、新宗教の熱心な布教や偏狭さへの警戒心から、自分は怪しい信者ではないと否定したいためだと宗教学者の島田裕巳は指摘する。日本のクリスチャンが友人にも自らの信仰を隠したりはぐらかしたりするのも、「怪しい」宗教とは無関係とする同様の意図が潜むように思える。

今年二月、ある人気女優が「幸福の科学」に出家し、宗教活動に専念すると宣言したことが話題となった。彼女は両親とも信者で、幼少期から「仏法真理的価値観」を学んできたという。また昨年末には、同教団学生部の女子がグループを結成、非公式アイドルとして活動を始めた。彼女たちは教団運営の中高で

学び、礼拝を中心とする規律ある寮生活を過ごしたという。

感覚的に「怪しい」と覚える新宗教での話だが、これをキリスト教に置き換えるかどうか。福音的価値観を学んできた若者が、祈りを欠かさない学生生活を送り、献身して伝道の途を歩む——これは信仰継承の鑑として激賞される事例であろう。

九〇年代に世間を騒がせた幸福の科学も既に二世が育っているのは時の流れを感じる。五〇年代に折伏大行進で勢力拡大した「創価学会」は今や三世、四世の時代だ。一方同じく高度成長期に教勢を伸ばした「パーフェクトリバイター教団」は、二世、三世が通うPL学園の生徒数が激減、教会数も半減した。

子女への信仰教育や教勢の維持という課題は、実はキリスト教と同じ「宗教」が抱える問題である。教会が高齢者の占有物となり、キリスト教主義学校がインテリと高所得者層ばかり受け入れ低所得の信者から遠い存在となった現実、他と変わらぬ「宗教」の事象として見直せるであろう。

兎角蛇蝎のごとく忌避される新宗教だが、教義や勧誘方法などの是非はともかく、生き方や価値観、居心地の良さを伝える努力を覗くのも面白いのかもしれない。(高橋)

本のひろば 2017年9月号 予告

本・批評と紹介・樽松かほる他著「戦時下のキリスト教主義学校」稲山聖修著「カール・バルトにおける神論研究」、大頭眞一著「焚き火を囲んで聴く神の物語・対話篇」、ドイッ福音主義教会常議員会著「義認と自由」、G・プラスガー著「カルヴァン神学入門」、A・マクグラス著「改訂増補新装 神学よるこび」、手束正昭著「恩寵燦々と」ほか

正教会入門

東方キリスト教の歴史・信仰・礼拝

ティモシー・ウエア著／松島雄一「監訳」

7月25日

初版以来40年以上、定番の地位を保ち続けてきた名著。たびたび改訂されたが、本訳は最新版に基づく。正教会はカトリックとプロテスタントの間で看過されがちだが、キリスト教を理解する上で不可欠。その神学から実践まで、深く正確な解説。

◆A5判・本体4000円

宗教改革史 名著復活！

ローランド・ベイントン著／出村彰「訳」

7月21日

宗教改革はなぜ起こったのか、どのような経緯を経て展開したのか。その後の世界を根底から変えた複雑な運動を、16世紀の歴史的・社会的条件に広く目配りしながら、改革者たちの信仰と思想に深く内在し、その全容をコンパクトにまとめた通史。

◆四六判・本体2800円

待ちつつ急ぎつつ

キリスト教講話集Ⅳ

井上良雄著

好評の講話集、完結！

◆新書判・本体1700円



東京神学大学で教鞭を執りつつバルト「和解論」全巻の翻訳に打ち込み、日本基督教団の社会委員長を歴任するなど、信徒として教会に仕えた井上。没後発見された14冊の説教ノートから復元された説教・講演を全4巻に集成。第Ⅳ巻には60年代から90年代までの11編を収録。表題作ほか「神学校における人間形成」「戦争責任の問題」「証人としてのキリスト者」など。

既刊 大いなる招待

キリスト教講話集Ⅰ

◆本体1700円

既刊 エデンからゴルゴタまで

キリスト教講話集Ⅱ

◆本体1700円

既刊 キリスト者の標識

キリスト教講話集Ⅲ

◆本体1700円

ポップカルチャーを哲学する

高橋優子 (酪農学園大学准教授) 福音の文脈化に向けて

現代日本を代表するポップカルチャーにはキリスト教的な象徴が溢れている！ それはなぜ？『新世紀エヴァンゲリオン』や『千と千尋の神隠し』から『永遠の0』や村上春樹の『1Q84』にいたる24作品を徹底批評！ そこに流れるキリスト教的なメッセージ=現代の日本人に最も近い福音の現在形を浮かび上がらせた問題作。

大反響！

◆四六判・本体2000円



「賛美歌」はルターから始まった—

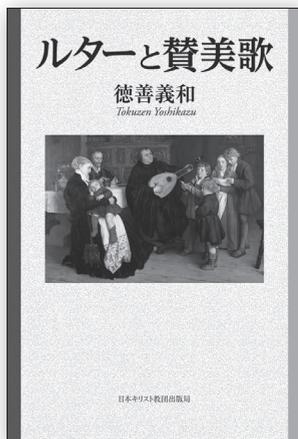
宗教改革者ルターの神学、
ルターが作った賛美歌を通して紹介する

ルターと賛美歌

徳善義和 2017年7月11日刊行

多くの賛美歌を作り「歌う人」でもあったルター。賛美歌は説教への会衆の応答であり、神のことばの説教でもあり、礼拝に会衆賛美を導入したのはルターであった。ルター研究の第一人者がルター作詞の多彩な賛美歌の全訳とメロディ、それらの賛美歌が作られた背景を解説。

◆四六判 並製・250頁・2,592円



電子書籍 2017年7月より 本格配信スタート!

初回配信は、長期品切の「説教者のための聖書講解」「アレティア—釈義と黙想」全17タイトル! ※ご購入は[YONDEMILL] (ヨンデミル) への登録が必要です

1 ブラウザだけで簡単閲覧

アプリのダウンロードは不要。
「My本棚」からブラウザ上で
いつでも読めます。

1単元
税込200円

2 PDFダウンロードが可能

購入後はPDFダウンロードができ、
手元にデータを残せて安心。
(個人利用の範囲に限ります)

3 単元ごとに購入可能

1単元ごとに安価で購入できます。
必要に応じて部分的に参照できる
ので便利です。

4 紙版より安価な価格設定

紙版より価格を抑え、税込価格で
端数を全て切り捨て。(税込2,000円など)
購入しやすい価格を実現。

簡単登録

[YONDEMILL] 登録に必要なのは「メールアドレス」と
「パスワード」だけ! お支払いもカード決済でお手軽!

今すぐアクセス! ▶ <http://bp-uccj.jp/publications/ebook/>

さらに! 紙で読みたい方向けに製本にも対応予定! ※単冊のみ・価格は電子版と異なります

